

若鮎だより

第75号

2026
秋号

ご自由にお持ち帰りください。

◇主な内容

診療科紹介	1
職場紹介	2
トピックス①	3
トピックス①、トピックス②	4
県民健康講座	5
地域医療連携機関紹介	6
トピックス③	7
新任者紹介、研修医日記	8
各部署便り	9
お知らせ	11
トピックス④、編集後記	12



日之影町 見立溪谷にて【事務部 中島功太郎さん撮影】



宮崎県立延岡病院
Miyazaki Prefectural NOBEOKA Hospital

〒882-0835 延岡市新小路2丁目1-10

TEL 0982-32-6181

FAX 0982-32-6759

URL: <https://www.nobeoka-kenbyo.jp/>



診療科紹介

血液内科



当科は白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの「血液のがん」を中心に、再生不良性貧血などの血液疾患を幅広く専門的に診療しています。血液専門医・指導医である常勤医1名が、診断から治療、経過観察まで一貫して担当し、常時40～45名の入院患者さんの診療にあたっています。

近年、血液がんの治療は劇的に進歩しています。従来の抗がん剤に加え、当科では患者自身の免疫力を利用してがん細胞を攻撃する「二重特異性抗体」などの最新治療も積極的に導入しており、難治性の症例に対しても新たな選択肢を提供しています。

外来診療は連日おこなっており、新規の紹介患者さんは月曜から木曜の午前中に受け付けています。入院から外来へのスムーズな移行や、通院での輸血継続など、患者さんが日常生活を送りながら安心して治療を続けられる体制を整えています。医師だけでなく、多職種のスタッフと連携し、地域の方々に最新かつ最適な医療を届けることに努めています。

産婦人科・周産期科



産婦人科の外来診療は毎日（火・木曜日は午後のみ）おこなっています。当院の特性上、急患対応や緊急手術が多く、外来患者様をお待たせすることもあり、御迷惑をおかけしております。

当院は地域周産期母子医療センターであり、県北地区全体の産科・新生児救急搬送に対応し、ハイリスク妊娠、ハイリスク分娩、ハイリスク新生児に対する救命救急の中核的な役割を担っています。年間平均

80件前後の母体搬送、35件前後の新生児搬送を受け入れています。NICUについては小児科とも共同で運営しています。

婦人科疾患では、子宮筋腫、骨盤臓器脱などの良性疾患の手術はもとより、悪性疾患（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん等）に対する治療もおこなっています。昨年度より腹腔鏡による低侵襲手術も開始し、地域の治療施設としての役割を担っています。

職場紹介

手術センター



当院の手術センターでは、11の診療科の手術を全身麻酔や局所麻酔で年間2,800～2,900件実施しています。人工心肺を使用した心臓の開心術や内視鏡を使用した手術、放射線画像を見ながらの手術、ロボット支援下での手術もおこなっています。スタッフは麻酔科医師4名、大学からの応援医師1名、看護師23名、看護助手、クラーク等で業務をおこなっています。また、臨床工学技士や放射線技師、薬剤師など多職種で連携・協働を図り、チーム医療をおこなっています。

患者さんにとって手術を受けることは人生における大きなイベントです。手術中だけでなく手術前から手術後まで安心・安全に過ごせるように、術前・術後訪問をおこない、患者さんの気持ちに寄り添った質の高い看護の提供ができるよう努めています。

感染管理科



感染管理科は専任の医師1名、専従の看護師1名、専任の看護師1名を配置しております。医師・感染管理認定看護師・薬剤師・臨床検査技師からなる感染制御チーム（Infection Control Team、ICT）および抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team、AST）を組織し、院内に発生した感染症の状況の把握、集団感染（アウトブレイク）時の対応、職業感染対策、職員のワクチン接種、感染防止対策関連の教育・啓発活動、院内全体の感染防止活動、院内ラウンド、抗菌薬適正使用支援活動をおこなっています。

感染管理の対象者には、当院を利用される患者さん及びご家族、面会者、医療従事者、委託業者、学生が含まれます。また院内感染対策の推進、感染症診療の支援をおこない、日本一手指衛生ができる病院を目指し、手指衛生の遵守に力を入れています。

さらに、近隣の医療機関と連携し、医療機関や高齢者施設を訪問し、地域全体での感染対策の向上にも努めています。

患者さん、職員の安全が守れるように、感染管理科が中心となって院内の感染対策を強化しています。

【活動報告】

令和8年熊本地震：被災地への継続的な医療支援活動について

この度の令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
宮崎県立延岡病院では、発災直後よりDMAT・DPATをはじめ、多職種による支援チームを継続的に派遣しております。各チームの活動状況についてご報告いたします。

1. 急性期医療と心のケア（DMAT・DPAT）【7月29日(水)～8月1日(土)】

DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請を受けて、地震発生9時間後の7月29日深夜1時半に当院よりDMATチーム（医師1名、看護師5名）が熊本県八代市へ出動しました。八代市役所内のDMAT活動拠点本部で、医療機関の損害状況の情報収集やライフラインの調査、続々と集結するDMAT隊への活動指揮をおこないました。

同時にDPAT（災害派遣精神医療チーム）の構成要員として、1名の精神認定看護師を派遣しました。熊本県庁内のDPAT調整本部で、精神科病院から避難のための転院調整や避難所等の精神的ケアニーズの情報収集、被災者のみならず支援者への精神的ケアや支援体制の整備をおこないました。



熊本城



DMAT・DPATのみなさん

2. 生活支援と感染症対策（災害支援ナース）

【8月6日(木)～9日(日)、18日(火)～21日(金)】

避難所への避難者支援を目的に災害支援ナースを4名派遣しました。避難所に避難されている方々に対し、健康状態の確認（バイタルチェック、持病、服薬状況の把握）や健康相談、体調不良者への対応を行うとともに、避難所内の衛生管理・安全管理、さらに避難者のメンタル面への対応をおこないました。また、厳しい暑さの中での脱水症予防や、集団生活で発生が懸念される感染症（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・感染性胃腸炎など）の拡大防止を目的として、環境整備を行い、手指衛生を中心とした感染症予防に関する啓発・アドバイスをおこないました。



現場の様子



会議等の様子

3. 地域医療の維持と再建（JMAT）

【8月9日(日)～12日(水)、12日(水)～15日(土)、21日(金)～24日(月)、30日(日)～9月2日(水)、9月14日(月)～17日(木)】

日本医師会によるJMAT（日本医師会災害医療チーム）として、医師・看護師・メディカルスタッフで構成されたチームをこれまで4隊派遣しました。統括JMAT隊は八代保健所内で全国から集結するJMAT隊の活動の統括や多くの災害支援団体との調整、日本医師会との連携などに従事し、支援JMAT隊は八代市内の医療機関に赴き医療機関からのリクエストに応じて医療活動をおこないました。

さらには避難所の巡回診療に対応するなど、必要に応じた柔軟な活動に従事しました。



JMATのみなさん

4. 総合的な救護活動（日赤救護班）

【8月15日(土)～18日(火)】

日本赤十字社の救護班の業務調整員として、1名の臨床検査技師を派遣しました。

宇城市内の避難所で活動し、他の災害支援団体と協同して避難所内の巡回診療や、感染症発生時の対応マニュアルの作成、被災者の方の困りごと相談（病院への移動方法がないなど）を他団体と協力し対応しました。また、長い避難所生活によるエコノミークラス症候群の検査として下肢エコーの検査もおこないました。



日本赤十字社の活動の様子

5. 今後の展望

これまで、医師9名、看護師16名、メディカルスタッフ9名の派遣をおこないました。被災地のニーズは、救命から生活再建、そして地域医療の復興へと移り変わっています。当院は引き続き熊本県からの要請に基づき、必要な支援を届ける準備を整えております。

また、災害拠点病院として、この貴重な経験を院内・地域へフィードバックし、大規模災害時にも揺るぎない医療を提供できるよう、今後も実派遣や訓練等に一層取り組んでまいります。

トピックス②

地域の安心を守るために。 災害時を想定した増床訓練をおこないました。

当院では7月7日・8日の2日間、もしもの大災害に備えた「病床増床訓練」をおこないました。

■訓練の目的と内容

災害時には、一度に多くの患者さまが来院されることが予想されます。そうした緊急事態でも、一人でも多くの命を救えるよう、病棟のベッド数を増やす際の手順を全スタッフで再確認しました。

「どこにベッドを配置するか」「スタッフの動きに無駄はないか」といった具体的な運用能力の向上を図っています。

■これからの取り組み

私たちは、地域の皆さまがいつでも安心して暮らせる医療体制を目指しています。今後も定期的な訓練を通じて、スタッフ一人ひとりの対応力を高め、皆さまの「安心の砦」となれるよう準備を進めてまいります。



移動用ベッドを配置している様子



訓練でのまよめの様子

「肌を守ろう！スキンケアのはなし」



皮膚は、細菌やアレルゲン、紫外線などの外的刺激から身体を守り、水分を保持し、体温調節や感覚にも関わる機能を持ち、重要な「バリア」であることを解説しました。特に皮膚の最外層にある角層が重要で、皮脂膜、天然保湿因子、角層細胞間脂質が水分を保ち、バリア機能を維持しています。加齢や基礎疾患、アトピー性皮膚炎などによってこの機能が低下すると、乾燥やかゆみ、炎症、感染症などにつながるため、やさしくスキンケアをおこなうことが大切です。

スキンケアは「清潔・保湿・紫外線対策」の3つに分けられます。清潔ケアでは、汚れを落とす一方、洗いすぎや熱い湯、ナイロンタオルなどによる摩擦はバリア機能を損なうため、38～40℃程度のぬるめの湯で、泡立てた洗浄料を使い手でやさしく洗うことが勧められます。保湿ケアでは、自分が継続しやすい製剤を選び、適切な量を1日2回以上、1～2週間以上継続することがポイントです。軟膏、クリーム、ローションなどを生活スタイルに合わせて使い分けることも有効です。からだに使うものは、パラベン、防腐剤、香料、界面活性剤、紫外線吸収剤フリーのものを選択したり、かぶれや経皮感作に注意することが必要です。紫外線は日焼けだけでなく、シミ・シワなどの光老化や皮膚癌の原因となります。紫外線にはビタミンDを合成する役割があり、全く浴びないのも問題になりますが、一般的な紫外線対策をしたうえでやむを得ず浴びてしまう量で十分とされています。日陰、帽子、衣服で覆う、日傘、日焼け止めなどの活用がすすめられます。そのほか、高齢者に多い「皮膚粗鬆症」は、加齢や紫外線が原因です。進行を防ぐには紫外線対策、保湿、外傷予防が必要なこと、また、傷は消毒よりも管理された水道水で十分に洗浄することが大切だということをお話しました。皮膚を守るとは、からだを守ることにつながります。スキンケアを通してからだを大切に管理しましょう。



地域医療機関紹介

医療法人社団健生会 大重産婦人科医院

当院は、先代の大重光雄が、昭和35年から昭和40年まで県立延岡病院で医長を務めた後、同年、春日町に大重医院を開業し、61年目となり、平成11年に建て直して25年となります。私たちは、地域の産婦人科として、女性のライフステージに寄り添い、安心できる医療と温かいケアを心がけています。対象は、思春期から妊娠・出産、更年期、老年期までと幅広く、子宮がん検診、月経困難症を含む月経異常、子宮筋腫や卵巣腫瘍などの婦人科疾患、不妊治療（人工授精まで）、避妊相談、ブライダルチェック、更年期ではホルモン補充療法やプラセンタ、漢方治療などをおこない、出産は緊急に対応しつつ、なるべく自然な形を心がけています。産後のニューボーンフォトも好評です。県北地域は、約70年の歴史を持つ「二八会」があり、県病院を含む地域の産婦人科医が毎月集まり、情報交換をおこなっています。この、顔の見える関係が、県病院との気兼ねない連携の根幹だと思います。



外観



スタッフの皆さん

住所：宮崎県延岡市春日町3-4-1 TEL：0982-21-2306

いのうえ整形外科クリニック

当院いのうえ整形外科クリニックは2018年4月に開院し、今年で8年目を迎えることになりました。母校である久留米大学で長年脊椎外科医として勤務し、一般整形外科と少し距離があつての開院で不安がありましたが、県立延岡病院・延岡共立病院を始めとした近隣の病院・先生方のご協力のもとで何とか無事船出することができました。現在は私の専門外の分野に関しては、久留米大学より手外科・リウマチ専門医、福岡大学より膝関節専門医の先生方が非常勤にて診察して頂き、至らぬ領域においては指導を受け、対応させて頂いております。私も50歳を過ぎましたが貪欲に手術研修や、講演会に参加し研鑽を積み、来院して頂く皆様のご期待に沿うよう頑張っていく所存です。あらゆる視点から延岡・宮崎県北の運動器疾患をバックアップしていけるよう尽力いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



外観

住所：宮崎県延岡市岡富町127番地 TEL：0570-01-3456

第64回 宮崎救急医学会

令和8年8月22日(土)、当院を会場に「第64回宮崎救急医学会」が開催されました。当日は、県内外から医師、看護師、救急救命士、医療系学生など、総勢130名を超える多くの医療従事者や学術関係者が一堂に会し、熱気あふれる学会となりました。本学会は、宮崎県内における救急医療のさらなる連携強化と、日頃の実践や研究成果の共有を目指し、長年にわたり積み重ねられてきた歴史ある学術集会です。

一般演題セッションでは、救急医療の最前線における貴重な症例報告や業務改善の試み、多職種連携に関するテーマなど、多岐にわたる34題の演題が発表されました。それぞれの発表に対してフロアからは質問の手が挙がり、限られた時間の中で活発で有意義なディスカッションが交わされました。

特別講演におきましては、公衆衛生学および医療政策の第一人者である福岡国際医療福祉大学学長・松田晋哉先生をお招きし、ご講演をいただきました。これからの少子高齢化社会を見据えた地域医療構想や、今後の地域救急医療体制が目指すべきあり方について、極めて示唆に富む貴重なお話をいただき、参加者一同、熱心に耳を傾けていました。

今回は、地域や職種の垣根を越えた強固な結びつきを再確認する大変実り多き機会となりました。本学会で得られた学術的な知見やネットワークは、今後の宮崎県における救急医療体制の発展に大きく寄与するものと確信しております。本学会にご協力いただいた全ての皆様に御礼申し上げますとともに、当院はこれからも、地域住民の生命と健康を守るため、救急医療の質の向上と発展に努めてまいります。



医学会の様子

新任者紹介

新しいスタッフをご紹介します。

産婦人科・周産期科 副医長

まえだ おうすけ
前田 央祐
(令和8年8月着任)

初めて延岡に住みます。県北の産科婦人科新生児医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。

呼吸器外科 医長

はまひろ ともか
濱廣 友華
(令和8年10月着任)

一年半ぶりに延岡に戻ってきました。県北医療に貢献できるよう精一杯がんばらせていただきます。

総合診療科

まつい りほ
松井 梨穂
(令和8年10月着任)

どうぞ宜しくお願いします。

救命救急科

たさき かずゆき
田崎 和志
(令和8年10月着任)

高千穂町出身ですので、延岡に派遣いただき、非常に嬉しく思います。よろしくお願いします。

救命救急科

ますやま のりこ
益山 典子
(令和8年10月着任)

慣れないことも多くご迷惑をお掛けすると思いますが、精一杯県北の医療に貢献できるよう頑張ります。

産婦人科・周産期科

かわごえ まな
川越 万菜
(令和8年10月着任)

初めて延岡に来ました。県北の女性や赤ちゃん、そのご家族のために真摯に頑張ります。よろしくお願いします。

研修医日記

笹山 大輔

1年次研修医の笹山大輔です。生まれも育ちも宮崎市で、25歳にして初めて故郷を離れ、延岡にやって参りました。これまで延岡との縁はあまり深くありませんでしたが、父親が単身赴任で延岡庁舎に勤めていた小学生の時、よく連れて来てもらったことを覚えています。旭化成の工場にそびえ立つ紅白の煙突が街を見下ろす光景が印象的でした。縁あって父親は再び延岡の県庁関連機関に勤務し、兄も市内の中学校で教鞭を執っており、実家は宮崎にありながら家族の半分以上が延岡に集う不思議な状況です。

研修医生活では当直を頑張りたいと延岡病院に就職しました。救急外来では百戦錬磨の先生方や看護師の皆様の元で勉強させていただき、小さい歩みながら日々一歩ずつ成長を実感しています。いつか自分も全科当直の責任者として夜を超えられる医師になることを夢見て、今後も精進して参ります。

釣りが好きです。よく磯でメジナを狙ってます。メジナが一番可愛い魚です。写真はシロギス釣りですが。好漁場の延岡でも釣りまくる予定です。





はじめよう！ローリングストック ～家庭備蓄のすすめ～



■ローリングストックとは？

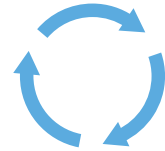
ローリングストックとは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

当院でも、患者さんの給食が滞らないよう、日頃より一部ローリングストックをしながら4日分の長期保存の食品と水を備蓄しています。

補充する



食べる



蓄える

■栄養バランスを考えて食品を備えよう

災害後の食事は、菓子パンやおにぎりなど、炭水化物に偏りがちです。

エネルギー源となる炭水化物はとても重要ですが、たんぱく質やビタミン、ミネラルなど、栄養バランスを考えて食品を選ぶことが大切です。

普段の食事にも取り入れながら、ローリングストックで備えていきましょう！

●たんぱく質がとれる食品例



豆腐・豆乳
納豆などの
大豆製品※



レトルトのおかず
煮物・煮豆等



牛乳・チーズ
ヨーグルトなどの
乳製品※



魚・肉・大豆の
缶詰（パウチ）



魚肉ソーセージ
ハム・ちくわ等

※豆腐や牛乳、レトルトのおかずは、常温保存可能なものもあります。停電に備え、常温保存も考慮します。

●ビタミン、ミネラル、食物繊維がとれる食品例



野菜
ジュース



果物



加熱しなくても
食べられる野菜



おくら・枝豆
ほうれん草等の
冷凍野菜



乾燥わかめ・乾燥
野菜・海苔等の乾物
（スープやインスタント
食品に入れる）

※冷凍食品を加熱せずに食べる場合は、自然解凍でそのまま食べられるかどうか商品を確認してください。

水、カセットコンロ・ボンベ、ラップ、加熱可能なビニール袋なども備えておく役立ちます

患者支援センターだより

がんのこと、ひとりで悩まないで 「がん相談支援センター」にご相談ください

がん相談支援センターって？

「がん」のことを相談できる窓口です。患者さんだけでなく、ご家族や地域の方も相談できます。

- 相談は無料、予約は不要です
- 名前を言わなくても相談できます
- 電話や面談で相談できます
- 今、治療を受けている病院が別の方も相談できます
- がんについての不安や困りごとを相談できます



県立延岡病院は **1階 患者支援センター内に**
「がん相談支援センター」 があります。

☎ **相談窓口：0982-32-6181（代表）**

📅 **相談日：月～金曜日（休日を除く）**

🕒 **相談時間：8：30～17：15**



たとえば、このようなご相談をお受けします

あなたの理解を支えます。

- 自分のがんについて詳しく知りたい。
- 医師に言われた言葉の意味がよくわからない。

あなたにとって難しい情報をやさしくわかりやすくお伝えします。

あなたの心を支えます。

- がんと言われて頭が真っ白です。
- 誰にも相談できず不安がいっぱいです。

不安な気持ちに寄り添い、心が穏やかになるようお手伝いします。

あなたの家族も支えます。

- 家族ががんです。どう接したらよいか悩んでいます。
- 家族としてできることが分からず、不安です。

ご家族からのご相談もお聞きしながら、必要な情報をご案内し、解決の糸口を探すお手伝いをします。

あなたの生活を支援します。

- 医療費はいくらかかるのか心配です。
- 仕事を続けられるのか不安です。

経済的な支援制度や介護・福祉サービスの活用方法、手続きなどについて、一緒に考え、必要な情報をご案内します。

※「がんの冊子」や、「がんサポートブックみやざき」などを無料でお渡ししています。

※がんに関する疑問や不安について、必要な情報をご案内しながら、一緒に考え、安心して治療や療養生活を送れるようお手伝いします。

当院 循環器内科 黒木一公医師が 「Best Doctors in Japan 2026-2027」に 選出されました！



循環器内科 部長
黒木 一公 医師

このたび、「Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出いただき、大変光栄に存じます。

「Best Doctors in Japan」は、医師同士の推薦・評価に基づき、「自分自身や家族が治療を受けるなら診てもらいたい医師」という観点から選出されるもので、日本では約7,100名（全医師の約2%）が選ばれています。正直なところ驚きもありますが、当院に赴任した2005年から21年にわたり取り組んできた心臓カテーテル治療（PCI）が評価されたものと受け止め、大変励みになっています。

私がここまで研鑽を重ねることができたのは、多くの症例を経験できる環境に加え、節目ごとに素晴らしい術者と出会い、その知識や技術を学ぶ機会に恵まれたからだと感じています。大きな転機の一つは、2015年に宮崎県の国内先進病院医師派遣事業で小倉記念病院に研修し、治療の安全性と有効性

を高める血管内イメージングを一から学び直したことでした。もう一つは、2019年の心臓脳血管センター本格稼働です。最新の治療装置と充実した設備、そして何より専従スタッフによる質の高いカテーテル治療チームが整い、より複雑な病変にも安全に取り組める環境が実現しました。

現在では、国内外でPCI術者として治療や教育に携わる機会も増えましたが、何より大切なのは、そこで得た経験や技術を東北地域の医療へ還元し、患者さんに安全で質の高い医療を提供することだと考えています。今後も技術の研鑽と後進の育成に努めてまいります。

これまでご指導くださった諸先輩方、共に診療を支えてくれる同僚・後輩・医療スタッフの皆様、そして長年温かく支えてくれている家族の「内助の功」に心から感謝しています。今回の受賞を新たな励みとし、これからも患者さんに安心して治療を受けていただけるよう、一層努力してまいります。



尚学館中学校・高等部のみなさんに 当院を見学していただきました

学校法人延岡学園 尚学館中学校・高等部の1年生25名に当院を見学いただきました。はじめに山口院長より、病院の概要や地域医療における当院の役割についてのお話があり、続いて金丸救命救急センター長から医師という仕事の魅力ややりがいについて、湊副看護部長から、看護師という仕事の魅力ややりがいについて紹介しました。

その後は、院内の各部署を見学。救命救急センターでは同校卒業生の医師・研修医・看護師が、医療人を目指したきっかけや仕事の内容について説明をしました。薬剤部では調剤の仕組みや薬剤師の仕事について、臨床検査科では検体検査や検査機器の説明を受けながら、医療を提供する上で欠かせないお仕事に触れていただきました。

今回の見学が、医療の現場を知るきっかけとなり、将来の進路や職業選択の一助となれば嬉しく思います。いつの日か、延岡病院でいっしょに働ける日を心待ちにしています。



同校卒業生医師からの説明の様子



ヘリポートでの様子

編集後記

〈編集長：呼吸器外科 主任部長 能勢直弘〉

外来で定期的に薬を処方している患者さんから「薬が余っているので今日は要りません」と言われました。理由を伺うと、「、、、実は薬代が負担で。薬を半分に割って少しずつ飲んでいました」とのこと。

お金の悩みは医師に言いづらく、医療者は知らぬ間に患者さんを苦しめていることがあると気づかされ、反省しました。

医療費負担を軽くする高額療養費制度が令和8年8月から改正されています。

例えば70歳未満・年収400万円の方（表の区分ウの方）は、ひと月に何百万円かかる医療を受けても、月の自己負担は85,800円＋1%、4回目以降※は44,400円。年間の上限は53万円です。

お金の悩みは治療の妨げになります。制度の詳細は患者支援センターに遠慮なくご相談ください。

※12ヶ月以内に4回以上

高額療養費制度の上限額

（令和8年8月から令和9年7月まで）

※高額療養費制度の見直しは令和8年度と令和9年度の2段階にわけて実施します。
下の表は令和8年8月から令和9年7月までの内容です。令和9年8月以降の見直しについては、厚生労働省ウェブサイトをご参照ください。

適用区分		年収目安	入院＋外来【月額上限】 （世帯ごと） 〈多数回該当〉	入院＋外来【年間上限】 （世帯ごと）	外来 （個人ごと） ※70歳以上のみ
70歳未満	70歳以上				
区分ア	現役並みⅢ	約1,160万円～	270,300円＋1% <140,100円>	1,680,000円	—
区分イ	現役並みⅡ	約770万円～ 約1,160万円	179,100円＋1% <93,000円>	1,110,000円	—
区分ウ	現役並みⅠ	約370万円～ 約770万円	85,800円＋1% <44,400円>	530,000円	—
区分エ	一般Ⅰ・Ⅱ	～約370万円	61,500円 <44,400円（※1）>	530,000円（※2）	月額上限 22,000円 （年間上限 21.6万円）
区分オ	—	住民税非課税 【70歳未満】	36,900円 <24,600円>	290,000円	—
—	住民税 非課税世帯Ⅱ	住民税非課税 【70歳以上】	25,700円 <24,600円>	290,000円	月額上限 11,000円 （年間上限 9.6万円）
—	住民税 非課税世帯Ⅰ	一定所得以下 （年収入約80万円以下など） 【70歳以上】	15,700円	180,000円	月額上限 8,000円

※1 年収約200万円未満である者は、令和9年8月以降、多数回該当の金額が引き下がる（44,400円→34,500円）。

※2 年収約200万円未満であることが確認できた者は、年間上限41万円を適用し、令和9年8月以降に償還払い。

引用：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/001725284>

宮崎県立延岡病院 外来診療・病棟案内

● 外来診療については、かかりつけ医の紹介状と病院・診療所からの事前予約が必要です。令和8年10月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	特 殊 診 察 等
内 科	呼吸器	新患 味志・応援医師	是 枝	—	藤 井	山田(晃)	気管支鏡検査……………水・金 (午後) 腹膜透析外来……………火、木 上部消化管内視鏡……………火・水・木 (午前) 下部消化管内視鏡……………火・木 (午後) 腎内手術……………火 (午後) 宮崎大学非常勤医師……………火 (第2・第4)、 水 (第1・第3・第5)
	再診	藤 井	山田(晃)	山 口	是 枝	味 志	
	血 液	外 山	外 山	外 山	外 山	外山(再診)	
	消化器	新患 小川・田中	—	—	—	市成・田中	
	再診	市 成	—	—	—	小 川	
	腎 臓	—	—	西 園	—	山下(遥)	
呼 吸 器 外 科		能勢(再診)	能勢(新患)	能勢(新患)	能勢(新患)		手術…月、火(第4)、木(第1・第3・第5)、金 気管支鏡検査……………水・金 (午後)
			濱 廣	濱 廣			
			黒木(将)	黒木(将)			
外 科 ・ 消化器外科		土 居	土 居		北 村	石 躍	
		石 躍	本 田		本 田		
乳 腺 外 科		—	—	—	落 合	—	非常勤医師(県立宮崎病院 乳腺外科専門医)
心臓血管センター	心臓血管外科	森	黒木(一)	伊 藤 (不整脈外来)	山本(展)	村 田	手術……………月、火、木 手術・検査……………月～金 心臓カテーテル……………月～金 (9時30分～) ペースメーカー外来…月・水・金 (午後)
	循環器内科						
整 形 外 科		濱 川	栗 原		栗 原		手術……………月、水、金 こども療育センター外来 (脳神経外科にて診察) ……………金 (第3)
		小 蘭	鮫 島		小 蘭		
			増 田		増 田		
		川 越	濱 川		川 越		
歯 科 口 腔 外 科			平 山	平 山	平 山	平 山	手術……………月、木 (午後)
			日 高	日 高	日 高	日 高	
			相 川	相 川	相 川	相 川	
産 婦 人 科 周 産 期 科		山 内	前 田 (午後)	山田(直)	小佐井 (午後)	第2・第4 小佐井	手術……………火、木 宮崎大学非常勤医師…金(第1・第3・第5) ※都築Dr. 診察……………火 (午後) ※小佐井Dr. 診察……………木 (午後)
		前 田		山内(午前) 小佐井(午後)		山内(午前) 山田(直)(午後)	
耳 鼻 咽 喉 科		山本(章)	山本(章)		山本(章)	山本(章)	手術……………水 休診日……………金 (第1・第3) 難聴外来……………月 嚥下外来(院内コンサルトのみ)…火・金 (午後)
小 児 科		黒木(梨)	海老原	保 田	岩 井	海老原	乳児検診……………火・木 (午後) フォローアップ外来 シナジス・バイフォータス
		保 田	黒木(梨)	岩 井	保 田		
脳 神 経 センター	脳 神 経 外 科	舎 川		西 川		舎 川	手術……………火、木 血管造影……………月・水 (午後)
		徳 田		徳 田		西 川	
皮 膚 科		後 田	後 田	後 田		後 田	手術……………木 休診日……………木
		黒木(進)	黒木(進)	黒木(進)		黒木(進)	
泌 尿 器 科		山下(康)	山下(康)		山下(康)	鬼塚／永井	手術……………水、木 (第2・第4午前のみ)、金
		鬼 塚	鬼 塚		鬼 塚		
		永 井	永 井		永 井		
		白 川	白 川		白 川		
総 合 診 療 科	再診	江藤・米良	石 坂	江 藤	梶 田	米 良	
	新患		米 良	梶 田	石 坂	江 藤	

※緊急以外の新患の受付は、午前11時00分までです。
※精神科・脳神経内科は現在休診となっております。

病棟フロア

	西側	東側
7階	リハビリテーションセンター	呼吸器センター (呼吸器内科、呼吸器外科)、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科
6階	整形外科	消化器センター (消化器内科、消化器外科)、外科、泌尿器科
5階	心臓血管センター (循環器内科、心臓血管外科)、腎臓内科、人工透析室	血液内科
4階	女性病棟 (産婦人科、内科、乳腺外科)、循環器内科	小児病棟、周産期センター (NICU・GCU)、消化器内科、循環器内科、皮膚科、外科
3階	集中治療センター (ICU) HCU、手術センター	脳神経センター (脳神経外科、神経内科)、救命救急科、総合診療科

★ 院内セキュリティ強化について ★ (お知らせとお願い)

不審者等による院内への侵入を防止するため、夜間(18時～翌朝8時)や土日祝日(年末年始を含む終日)においては、院内への入口を南側救命救急センター横の夜間・時間外入口(警備員室前)1箇所のみとさせていただきます。



健康増進法第25条の定めにより、受動喫煙防止のため、敷地内での喫煙を禁止します。

広報委員会からのお知らせ

広報誌へのご意見・お問い合わせにつきましては院内のご意見箱、FAX0982-32-6759 または <https://www.nobeoka-kenbyo.jp/> まで!